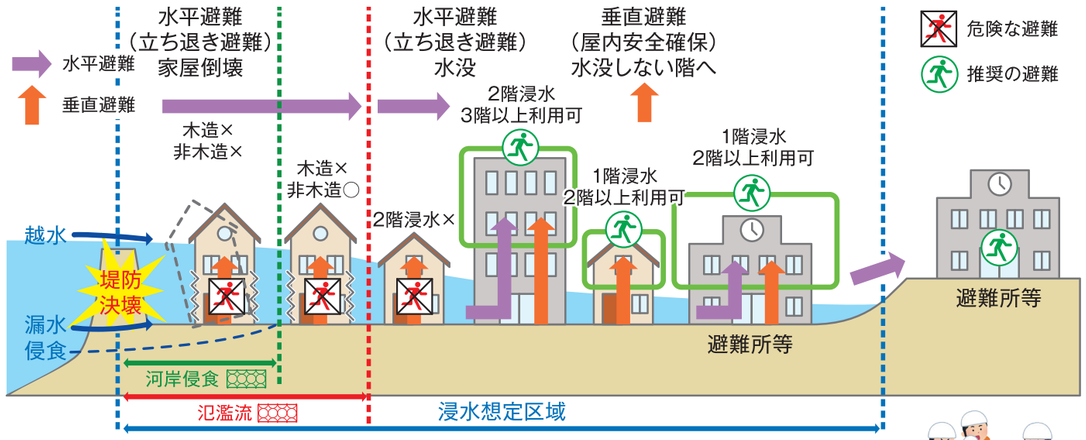
洪水浸水想定区域図とは？

堤防が決壊した場合に浸水が想定される区域と深さを求め、それをシミュレーションにより図面したものが洪水浸水想定区域図です。志摩市では、洪水浸水想定区域図をもとに、災害時の対応や避難場所の位置等の情報を具体的に記載した志摩市洪水ハザードマップを作成しました。

家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食・氾濫流）

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、堤防が決壊することで発生する激しい流れにより、家屋などが流されるおそれのあるエリアです。



早期の立ち退き避難が必要なエリア　●河岸浸食　家屋の構造に関係なく、土台ごと流されるおそれのあるエリア　●氾濫流　木造家屋が流されるおそれのあるエリア

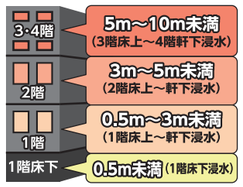
● 次の３つが確認できれば浸水の危険があっても安全を確保することも可能です。

❶ 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない（入っていると…）

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

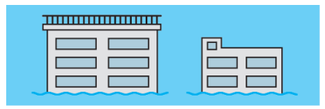
地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

❷ 浸水深より居室は高い



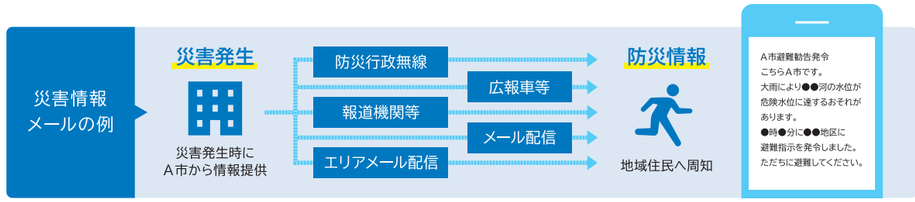
❸ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分（十分じゃないと…）

水、食料、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



災害情報・気象情報・避難情報等を集めましょう

テレビやラジオ、スマートフォン等で情報を集めましょう。インターネットを使えば、タイムリーな災害情報を得ることができます。また、三重県が提供している「防災みえ．ｊｐ」のように気象・観測情報をメールで自動配信してくれるサービスもありますので、ぜひ活用しましょう。（下記のＱＲコードからアクセスできます）



防災みえ.jp

ためらわずに避難しよう！

● 警戒レベルや避難情報の確認

警戒レベル	状　況	住民が取るべき避難行動等	住民に行動を促す避難情報等	防災気象情報	
				洪水に関する情報	土砂災害に関する情報
5	災害発生または切迫	**命の危険　直ちに安全確保！** 命が危険ですので、直ちに身の安全を確保しましょう	**緊急安全確保** （市区町村が発令）	・氾濫発生情報 ・大雨特別警報（浸水害） ・洪水キキクル（災害切迫）	・大雨特別警報（土砂災害） ・土砂キキクル（災害切迫）
《 警戒レベル4までに必ず避難を！》					
4	災害のおそれ高い	**危険な場所から全員避難** 速やかに危険な場所から避難先へ全員避難しましょう。	**避難指示** （市区町村が発令）	・氾濫危険情報 ・洪水キキクル（危険）	・土砂災害警戒情報 ・土砂キキクル（危険）
3	災害のおそれあり	**危険な場所から高齢者等は避難** 避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難しましょう。 その他の人は、必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難しましょう。	**高齢者等避難** （市区町村が発令）	・氾濫警戒情報 ・洪水警報 ・洪水キキクル（警戒）	・大雨警報（土砂災害） ・土砂キキクル（警戒）
2	気象状況悪化	**自らの避難行動を確認** 避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	**洪水・大雨注意報等** （気象庁が発令）	・氾濫注意情報 ・洪水キキクル（注意）	・土砂キキクル（注意）
1	今後気象状況悪化のおそれ	**災害への心構えを高める** 防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高めましょう。	**早期注意情報** （気象庁が発令）		

注 意　警戒レベル５緊急安全確保は必ずしも発令されるものではありません。また、警戒レベル５では避難行動が難しくなることが想定されるので、警戒レベル４避難指示で避難を始めてください。

避難の心得

状況により、早めに避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、早めの避難を心がけましょう。また、屋外への避難が危険な場合は、家の2階など垂直避難を考えましょう。

浸水時は足元に注意

マンホールや側溝などに足をとられないよう、長い棒などで確認しながら歩きましょう。

浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。

浸水時に自動車での避難は危険

普通自動車は約30㎝の浸水で走行困難になります。特に、アンダーパスなどの掘り下げた道路は、真っ先に浸水するため大変危険です。

防災メモを持とう

事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。

みんなで助け合おう

単独での行動は避け、隣近所に声をかけ合い、みんなで避難しましょう。

持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

安全なルートで避難

避難経路は、川や水路沿い、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。